

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2973600147		
法人名	株式会社シルバーケアコンサルタント		
事業所名	グループホームさくらの里		
所在地	奈良県吉野郡大淀町今木880番地		
自己評価作成日	令和5年6月26日	評価結果市町村受理日	令和5年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和5年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの利用者の思いに寄り添って支援します。施設内はゆったりとしたスペースがあり、外には四季折々の花があります。近くにはバラ園があり、施設周辺は、田畑が広がり、自然豊かな場所で心穏やかに過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓からは緑豊かな田畑や山が見え自然に囲まれた場所にあります。デイサービスが併設されており、デイサービスを利用されていた方がグループホームに入居される方もおられます。入居後も関係が途切れない様にデイサービス利用者との交流機会もあります。また、馴染みの物の持ち込みや趣味や嗜好品を持ち込まれ、在宅生活からグループホームの生活へと環境が変わっても、スムーズに移行し、今までの生活が継続出来る様に配慮されていると感じました。貴ホームだけではありませんが、新型コロナウイルス対応で様々な制約があります。コロナ禍が解消すれば、自然豊かな環境の中、広々とした敷地、ゆったりとしたホーム内のスペースを活用しながら、入居者の方と一緒に新たな楽しみを見つけることが出来れば、更に充実した生活が出来ると感じました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で今までの生活を継続できるような理念にし、玄関とリビングに掲示	「緑豊かなこの地域で一日一笑」を理念とし、玄関、リビングに大きく掲示されています。誰が見ても分かりやすく理解しやすい様に工夫されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	柿の葉寿司などの地域の特産物を施設に運んで頂いたり、近くのバラ園の見学に行っている。(コロナが流行していた為、地域交流は減っている。)	自治会に加入されています。また、ホームの隣にバラ園があり、散歩がてらに見学し地域住民との交流を図られています。コロナ禍前は近くにある神社の行事にも参加されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、オレンジカフェ等にて施設の紹介をし、町内の参加者の方々にお伝えしていたが、コロナの為、中止		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、運営推進会議は中止	コロナ禍で中止していましたが、5類となったこともあり、今年の6月14日に会議を再開されています。ご家族や、元町会議員、行政担当課や地域包括支援センタースタッフの参加があり、ホームの活動報告等を通して話し合いがもたれています。今後も、2～3か月に1回のペースで企画されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初めに役場の方には在籍状況を書面で提出し、連携を図っている。	毎月、行政担当課へ在籍、入院状況等の書面を持参し、近況報告や情報交換をされています。行政や近隣医療機関の地域医療連携室等と関わりを持ち、入居相談等の連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の目の届く位置に資料を置き、拘束の意味を十分理解している。玄関等の施錠に関しては、防犯上の意味で実施している。	虐待や身体拘束に関するマニュアルが整備されています。研修に関しては、コロナ禍でもあり人員を考慮し、管理者が外部研修に参加し、スタッフに周知しながら取り組んでおられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いを適正にすることによって虐待の防止につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を必要とする人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をかけて説明し、理解、納得をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は面会時や運営推進会議時に家族様から、意見、要望等聞いていたが、コロナの為、家族様からの電話を頂いた際に色々な意見を聞いて検討している。	新型コロナが5類となり面会を再開しております。日頃の電話や面会時、また、医療機関への受診等でご家族と関わりがある時に意見を聞いておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間、申し送り時、管理者からスタッフへ要望や意見を聞き、出来ることは取り入れている。	朝夕のスタッフミーティングで話をする機会を設けて業務やケアについて意見を聞いておられます。また、日頃から話しやすい雰囲気を意識され、休憩時間や就業前後にスタッフに声を掛け、何気ない話の中から意見を聞き取り反映する工夫をされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映させ、向上心を持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための休みに配慮している。また、働きながら看護師が医療の知識を看護職員に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ以前は、地域包括支援センター、奈良総合医療センターなどの研修に参加し、職員に内容を伝えていた。コロナ流行中は研修にはZOOMなどを利用し参加するようにしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、施設に来所してもらい、本人、家族と面談を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、出来る限り本人、家族に見学をすすめ、不安を取り除く努力をしている。(コロナの為、出来るだけ最小の人数と短時間で願います。)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の情報をもとに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで出来ていた家事等を一緒に行い支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	過去の両者の関係を聞き、面接時の会話の中で良い関係が築けるようにさりげなく支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の電話連絡があった場合、家族様に許可を取り、電話にてお話し頂く。(以前は外出等して頂いていたが、コロナの為電話連絡で対応)	コロナ禍前は知人との面会や外出、ご家族との外食、お墓参り、自宅での外泊など柔軟に対応をされていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や日常生活の中でお互いが尊重し合い、より良い関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様からの相談があれば、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、職員の観察から本人の要望、意向の把握に努めている。	入居前の生活の様子の把握と日頃の会話から昔から行っていた趣味や嗜好、財布などの所持など、習慣や思い入れのあることが継続して行える様に、ご家族と協力しながら取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で習慣や癖等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状況表や個人日誌を作成し、一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に評価を行い、本人家族の意見を聞き介護計画に反映させている。	月に1回モニタリングを行い、一カ月の出来事をまとめプランの見直しをされています。心身の状態の変化や生活の様子に変化があれば、随時、ケアプランを更新されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人日誌、健康状況表を記入し、定期的にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望の把握を行い、柔軟に応じている。(コロナ流行以前は、外食、外泊等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの畑をされている人から野菜を頂いたり、隣のバラ園の見学等させて頂き、地域の人と交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望に合わせて受診を支援している。希望のない方は、近くの協力病院(トミークリニック)の受診を支援している。	元々のかかりつけ医とも継続的な関わりを大切にされておられ、ご家族の協力を得ながら受診等をされています。また、ホームの協力医療機関への受診も可能です。その他、併設デイサービスの看護スタッフの週に1回訪問があり、助言等を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の訪問看護ステーション、協力病院の看護師、グループホームの看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談窓口(地域連携室)等と話し合いの場を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態変化時は家族とかかりつけ医と連携し今後の方向について話し合っている。	重度化となった場合、主治医の意見、ご家族の意向を踏まえ、近隣特養や医療機関での療養等も含めて入居者の状態に合わせて対応をしています。また、終末期は、対応能力、ご家族の協力体制等を見極めた上でホーム内で看取することも可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等のマニュアルに基づいて、グループホームの看護師により、随時指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機の点検時、職員で使用方法について確認している。消防署、駐在所とは連携している。年2回利用者とともに避難訓練(消防訓練、災害訓練)を行っている。備蓄物は外の物置に入れている。	5月と11月に消防訓練と災害訓練を入居者の方も参加しながら行っています。スタッフには平屋の建物の特性を生かし、有事の際、パニックにならない様に消火よりも入居者の避難を優先に意識づけをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに関しては周りの利用者様に気付かれないようプライドを傷つけないように配慮している。	例えば、トイレの失敗時に他者に気づかれない様にさり気ない対応をするなど、自尊心を傷つけない様に配慮しています。また、本人、ご家族や第三者が不快に感じない言葉遣いをする様に心がけ、相応しくない言葉や行動はその都度指導をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な日常生活の場面で本人の意思を尊重する声掛けを行っている。レクリエーションはテーマを決め、手作業に関しては興味のあるものを選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でその日の体調、気分を考慮し、個々にあった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。服装、化粧品は本人の意思に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操(口の運動)をして頂くことで、美味しく食事を頂けるようにする。また、音楽をかけることで、食事時間を快適にして頂く。	食事は外部業者から手配しています。ご飯とお味噌汁はホーム内で作っています。食事中、音楽を流し気持ちよく食べて頂ける様配慮されています。また、コロナ禍前は外出に出かける時もあり、食事を楽しむ工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録している。希望に応じて嗜好に合う代替食品を摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行い、お手伝いしている。(声掛け、見守り、要介助)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康状況表に個別の排泄を記録し、日中はトイレでの排泄を支援している。(定時声掛け)	排せつチェック表を活用し、排せつ周期や仕草を把握し、入居者各々のペースに合わせてトイレでの排せつが継続出来る様に支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いメニュー(朝食にヨーグルト)を取り入れたり、施設の看護師やかかりつけ医に相談している。毎朝、ラジオ体操等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の範囲内で希望に沿って支援をしている。(月～土)	基本的に週2回、午前中の中の入浴となっています。1日3名～4名の入浴でゆったりと入浴が出来ます。コロナ禍前は、併設デイサービスの大浴槽での入浴を企画し温泉気分を味わって頂くなど工夫をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠リズムを尊重して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の確認のもと、フェイスシートに服用している説明書をファイルし、薬に関する知識を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々にあった役割を果たすことで満足感を味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行前は本人から帰宅は墓参り、法事、外食の希望があれば、家族に連絡、相談して実現できるように支援していた。	ホームの隣にあるバラ園を散策をしています。コロナ禍前は近くのスーパーへ買い物に出かけるなど外出機会を設けていました。また、ご家族の協力の下、墓参りや外食などもされていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご入居されている方でお金を管理されている方はおられません。(取られ妄想等があり、不穩の原因となることが多いため)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があればいつでも利用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾り、季節を感じて頂いている。	リビングは南側に大きな窓があり、自然光が入り明るい空間です。広々としておりソファや畳の部屋もあり、各々がゆったりと寛げる雰囲気があります。また、季節に合わせた花や、入居者の作った創作品を飾るなど居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、リビングにテーブルと椅子、ソファを置き、食事のテーブルは利用者の相性などを考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具、テレビ、布団等生活用品を持ち込まれて、穏やかに過ごされている。	ベッド、洗面台を備え付けています。窓からは自然豊かな山や田畑が見えます。自宅で使っていたタンスや趣味の道具、馴染みの愛用品などに囲まれ居心地の良い空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を自分のタンスになおして頂く。		